

○はじめに

○令和2年度11月補正予算（案）

○歩行動画解析アプリを活用した

フレイル予防の実証

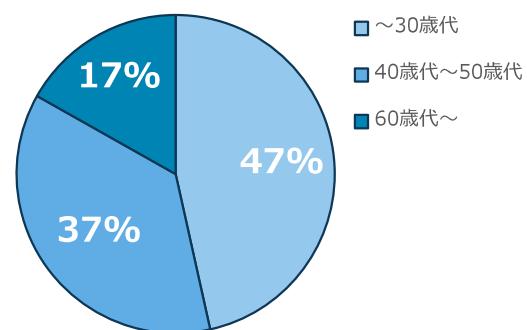
堺シグナルの状況

○11月17日現在

直近1週間の感染経路不明者数



直近1週間の新規陽性者年齢構成割合

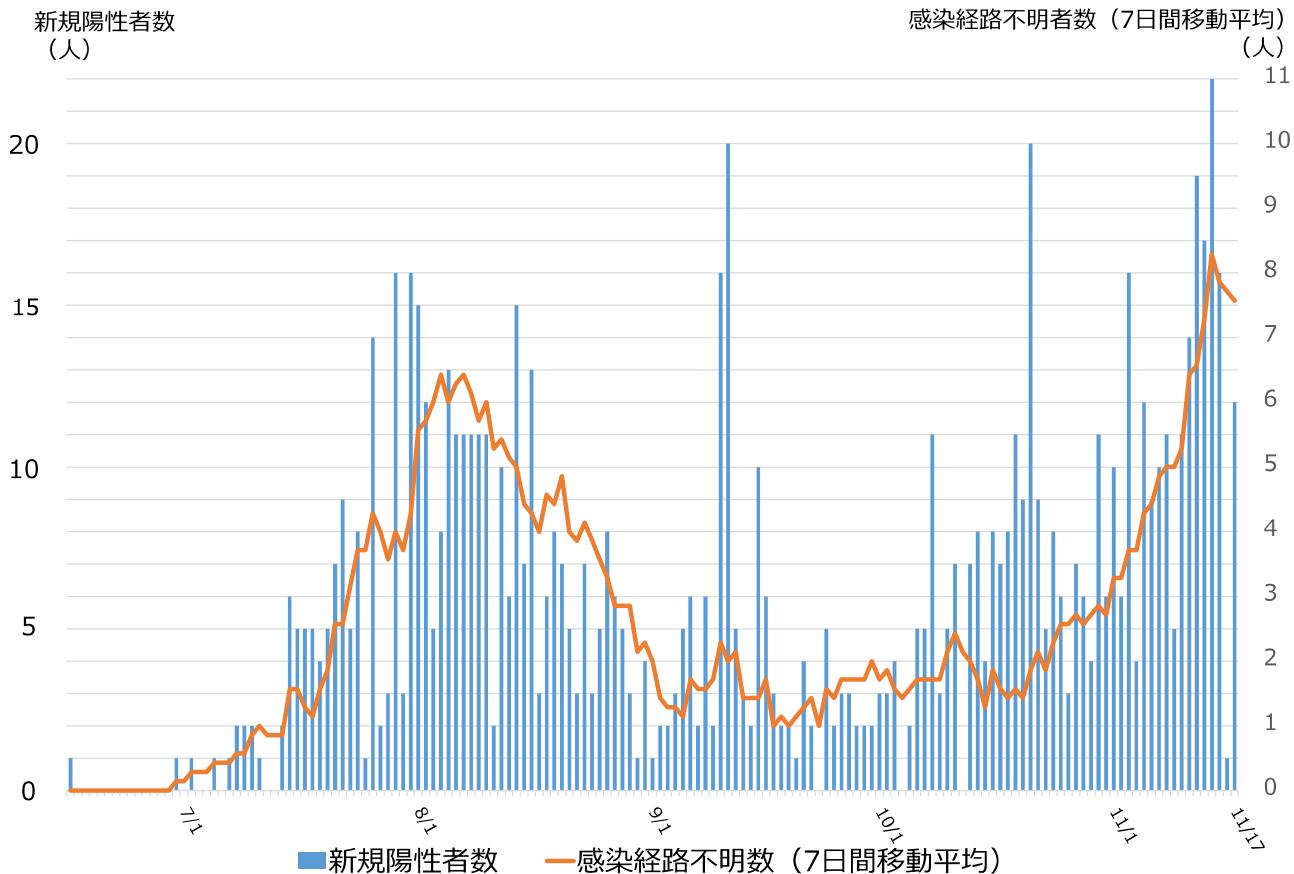


モニタリング指標	日付	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16
直近1週間の累積感染経路不明者数の増減傾向	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	
直近1週間の新規陽性者年齢構成割合	30歳代以下	52%	46%	41%	45%	46%	47%	47%
	40歳代～50歳代	29%	32%	37%	36%	35%	37%	36%
	60歳代以上	19%	22%	23%	20%	18%	16%	17%

直近1週間の新規陽性者の年齢構成割合は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

新規陽性者数と感染経路不明者数の推移

堺市
SAKAI CITY



「5つの場面」に注意

堺市
SAKAI CITY

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で注意力が低下する。また、聴覚が鈍磨し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、人人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、例えば深夜のはしご酒では、昼間の通常の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- また入人数、例えば5人以上の飲食では、人声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、屋内ラオケや野外のバーベキューでの事例が確認されている。



場面④ 狹い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



○令和2年度11月補正予算（案）

令和2年度11月補正予算（案）

○全会計の補正予算総額 **5,516,931千円**

新型コロナウイルス感染症の対応 **1,617,738千円**

（堺市独自）

ひとり親世帯への給付金支給 313,742千円

児童施設等職員への応援金の支給 193,000千円

新型コロナウイルス感染症以外 **3,899,193千円**

（主なもの）

基金の積み立てや還付金 4,466,338千円

人件費（新陳代謝を含む） ▲917,746千円

○ひとり親世帯への給付金の支給

313,742千円

【対象者】

ひとり親世帯臨時特別給付金の受給世帯等

【支給金額】

1世帯当たり、3万円又は10万円

○児童施設等職員への特別応援金の支給

193,000千円

【対象者】

認定こども園・保育園や児童養護施設等の職員

放課後児童対策事業等に従事している職員

【支給内容】

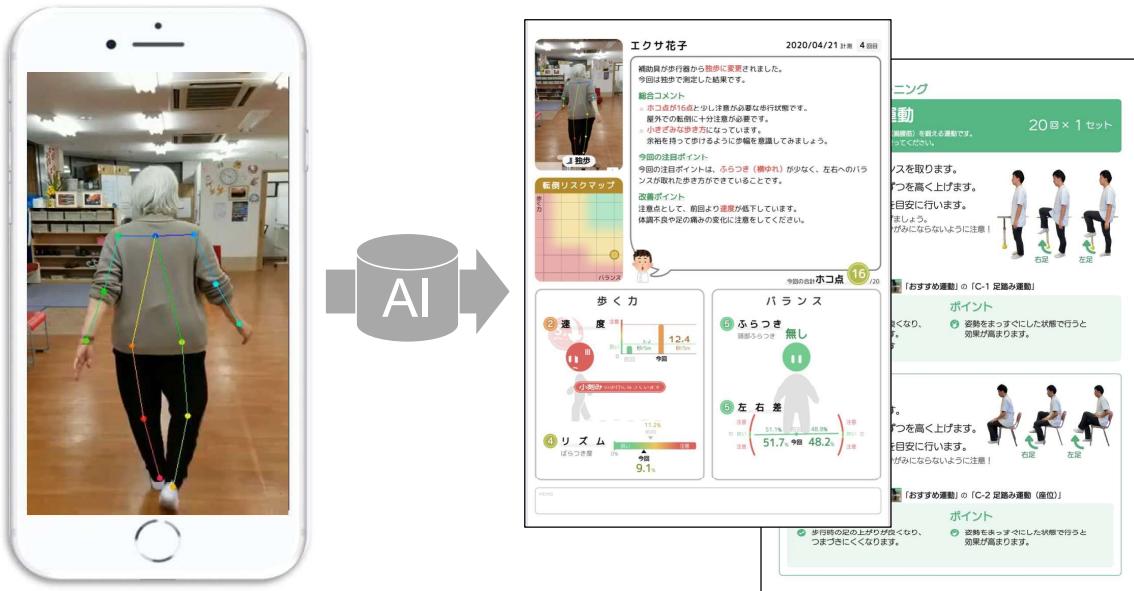
1人当たり、2万円分のクオカード

11月18日市長定例記者会見

○歩行動画解析アプリを活用した

フレイル予防の実証

○堺スタイル・ビジネス・コンテスト（SBC） 最優秀賞 動画コミュニケーションアプリ「ケアコチ」（エクサウェイザーズ社）



- 歩く様子を撮影した動画をAIが解析 → 身体機能や転倒リスクを見る化
- 介護施設等で、施設利用者や家族、ケアマネジャーとのコミュニケーションツールとしても活用可能

歩行動画解析アプリを活用したフレイル予防の実証

○ケアコチを活用したフレイル予防の実証プロジェクト

【背景】 コロナ禍で、介護予防教室等では、接触を伴う体力測定が中止

ケアコチで、介護予防教室等の参加者の歩行を解析



- 現在の身体機能の状態を非接触で見える化
- 自分に合ったおすすめ運動を提示



高齢者の改善意欲向上へ

【検証期間】 令和2年12月1日～令和3年2月28日